



2019年3月29日

関係者各位

一般財団法人
日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部

2019年度 競技会運営方針について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

国内におけるライフセービングスポーツの普及および競技力のレベルアップと、競技会の魅力を高めつつ、競技会運営の健全化を通じて経済的に持続可能なものとするべく、様々な改革を進めております。

今期の運営方針につきまして下記の通りお知らせいたします。

敬 具

記

ライフセービングスポーツの役割

様々な活動で成り立つライフセービングにおいて、これからの活動をさらに発展させていくために必要なライフセービングスポーツの役割を、以下の2点とします。

- ライフセーバーに求められる救助技術や体力の向上を目的とすること。
- ライフセービングを始めるきっかけとして、活動の入口であること。

各競技会における資格要件

ライフセービングスポーツがライフセービングのきっかけとなるように、資格取得要件を問わない競技会を設ける。

- 全日本選手権大会（以下、全日本）と全日本学生選手権大会においては、ベーシックサーフライフセーバー資格所持を参加条件とする。
- 全日本プール競技選手権大会（以下、全日本プール）および全日本学生・プール競技選手権大会においては、プールライフガード資格かベーシックサーフライフセーバー

資格所持を参加条件とする。

- 全日本と全日本プールへの高校生の参加においてはウォーターセーフティ資格および JLA 認定 BLS(CPR+AED)資格所持とする。
- それ以外の競技会における資格取得要件は、推奨にとどめる

全日本プールの方針

- ILS 承認を引き続き取得し、世界記録の申請が認められる競技会とする。
- 国際化を進め、アジア太平洋チャンピオンシップの同時開催を目指す。
- 2 種目と限定している出場制限を撤廃し、タフな選手が育つ環境を用意する。
- タイム決勝ではなく、予選と決勝を行う。
- SERC に関しては世界基準での開催と、多くの選手に出場いただくことを目指し、全日本プールではこれを行わず、今年度後半での単独開催を目指す。

全日本種目別選手権大会（以下、種目別）の方針

- 国際化を進め、アジア太平洋チャンピオンシップの同時開催を目指す。

全日本予選会の方針

予選会は各地方ブロック毎での開催・運営が実現するように進めていく。

- 2019 年度は、各地方ブロックでのテスト運用を行う。
- 各予選会名称に地方ブロックの名称を反映させる。
- 2021 年度からは、地方ブロック単位での自主開催を目指す。

競技会での BLS アセスメントについて

BLS アセスメント（以下 BLS）は競技ではなくルールも存在しないため、「競技」の総合結果に含めるのは適切ではない。しかしながらこのライフセービングスポーツが通常のスポーツではなく BLS のできるライフセーバーのスポーツであること、勝つことではなくライフセーバーに求められる救助技術や体力を高めることが最終目的であること、を内外に示す象徴的かつ重要な種目であるため、これを継続するとともにより魅力的なものとしていく。

- これまで通り、競技会によっては BLS を行なっていく。
- 評価結果を「競技」の総合結果には含まない。
- 競技会登録選手からの無作為抽出ではなく、BLS に自信のある選手にエントリーして

頂き、表彰を行うことで、より高いレベルのBLSを目指す。

中学生の全日本および種目別への参加について

国内において中学生が参加できる競技会はまだ少ない。それを補うために特別な条件のもとに全日本および種目別への参加を認めることにより、才能ある中学生に挑戦の場を増やし、その成長のための環境を整えることを実施していく。

しかしながら大人に混じって競技に参加することは、体格に勝る大人とのコンタクトによる怪我や、中学生の競技レベルに合わせた安全管理がなされていないなど、様々リスクが考えられる。そのため中学生のだれもが気軽に参加すべきではなく、サーフライフセービングインストラクター資格を所持するユース指導責任者（以下、ユース責任者）、その保護者、そして本人が、本人の力量を見極めた上で覚悟を持って参加するべきである。

そして体格差、技術、体力、怪我の可能性などに少しでも不安がある場合、勇気を持って参加をとりやめるべきである。

上記の考えのもと、以下の条件において全日本および種目別への参加を認める。

● 参加条件

- ユース責任者と保護者は、参加する全てのレースに立ち会えること。
- 中学生が参加できる種目は当面、体への負担の大きいサーフスキーを使用する種目や区間、コンタクトの多いサーフレースとビーチフラッグスを除く。
- 本人の参加が、競技会進行を妨げないこと。
- 高校生の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 競技会主催者には、競技会主催者の主観的な判断で中学生の参加を止める権限があり、その判断に対する抗議は受け付けない。
- いかなる理由においてもエントリー費の返却は認めない。

● 参加方法

- 競技会会場で立ち会うユース責任者と保護者が、参加する本人の体格・技術・体力・精神面および海のコンディションをレース毎に確認し、話し合い、参加の是非の判断を自身の責任において行う。
その際ユース責任者は、ライフセーバーとして、またサーフライフセービング・インストラクター資格保持者として、慎重な判断を行う。
- ユース責任者と保護者の両名が免責条項を含む特別同意書へサインし、両名同席の上でこれを競技会実行委員会へ提出すること。（詳細は各競技会要項を確認）

ジュニア・ユースのオーシャン競技会のありかた

- 従来ジュニアカテゴリーとユースカテゴリーに分けて別々の時期に行われていたオーシャン競技会を、ビーチ上で行うビーチ種目と、海の中に入って行うサーフ種目というカテゴリーに分けて行うことで、以下を実現する。
 - (旧) 6月 ジュニア競技会 ビーチ種目とサーフ種目競技
 - (旧) 8月 ユース競技会 ビーチ種目とサーフ種目競技
 - (新) 6月 ジュニア・ユース競技会 ビーチ種目
 - (新) 8月 ジュニア・ユース競技会 サーフ種目
- ビーチ種目とサーフ種目の両方に出場しやすくすることで、プール競技会と合わせてシーズン毎のマルチスポーツ化を実現し、発達期にあるジュニア・ユース世代にとってより多くの種目を体験する機会を創出する。
- 競技会運営の採算性を向上し、競技会開催を継続できる運営体制を整える。
- サーフスキーなどのクラフト体験会を企画し、ジュニア・ユース世代にとって海での楽しい原体験を作り、ライフセービングスポーツへ深く引き込む。
- マスターズ競技会の同時開催を目指す。そのことにより、以下を実現する。
 - マスターズ世代の活躍を身近に感じることで生涯スポーツをあたりまえにする。
 - ジュニア・ユース世代とマスターズ世代の世代間交流を図る。
 - 2021年のワールドマスターズゲームズに向けてマスターズ世代を盛り上げる。
 - 競技会運営のさらなる採算性の向上を図る。

審判員ユニフォーム有償化

これまで初回参加の認定審判員に対して無償配布していた審判員ユニフォームを有償化する。各クラブに対しては、これまで無料配布してきたユニフォームをクラブ内や友人同士で融通していただくなどの協力をお願いする。これにより、競技会運営の採算性の向上を目指す。

以上